

母国の仲間免許を

伊勢市小俣町元町の南部自動車学校で、王驍さん(26)が全国でも数少ない中国人指導員として活躍している。王さんは「日本語が話せないため自動車の運転免許取得を諦めている中国人の人たちに、免許を取って日本で快適に暮らしてほしい」と話し、中国語で交通ルールや運転マナーを分かりやすく指導している。【小沢由紀】

王さんは中国の天津市 本語学校で日本語を学出身。中学生のころ、日 び、大分県の日本文理大本に留学中のいところから 学経営経済学科に留学し「日本は、空気も景色も美しく、とても良い国。文化の違いも面白い」と聞き、「いつか日本に行ってみよう」とあこがれるようになったという。20歳の時、天津市の日

本語学校で日本語を学 び、大分県の日本文理大本に留学中のいところから 学経営経済学科に留学し て念願の日本での生活が 始まった。中国で運転免許を取得していた王さんは、切り替えの手続きをして日本でも車を運転した。休日には友人たちとドライブに出掛け、「別

自動車教習所の中国人指導員 王驍さん(26)



府や由布院などいろんな温泉巡りを楽しんだ」と振り返る。就職を決める時、知人から南部自動車学校を紹介された。同校は運転が

できないために不便な生活を送っている中国人が多いことを知り、中国語対応の教習プログラムを作ろうと、中国人の教習指導者の養成を進めてい

た。車もドライブも大好きな王さんは、好きな車に携われるうえ、母国の仲間たちの役に立てる仕事に魅力を感じ、同校への就職を決めた。自身がまず指導者の国家資格を取ることからスタートし

た。運転技術には自信があったものの、法律や交通ルールの専門的な日本語を勉強して今年2月、無事に指導員の資格を取得した。

5月末から本格的に中国人対象の合宿教習が始まった。中国語での教習

《メモ》おう・ぎょう 愛車は「デミオ」。頑張って働いて、趣味は温泉巡りとビリヤード。生時代は毎日ラーメンを食べていた。「ラーメンがおいしい店があったら教えて」

があっても、多くは日本人が指導する学校が多いのが現状。そんな中、中国人による教習が注目され、県内外から受講生が集まる。王さんは教材を中国語に翻訳して分かりやすい資料にしたり、中国との交通ルールの違いを図で示して説明したり、心を砕く。受講生から「中国人同士ならではの微妙なニュアンスが伝わって理解しやすい」と好評を得ている。王さんも「1期生は見事一発で合格しました」とうれしそうだ。

そんな王さんが伊勢に来て、まず戸惑ったのは伊勢弁という。「(標準語を学んできたので)最初は何を言うてるんか分からへんだわ」。今では伊勢弁を交えた冗談で場を和ませる王さん。職場のムードメーカーとしても活躍している。